

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名				
○保護者評価実施期間	2025年9月3日		～	2025年9月26日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	33名	(回答者数)	22名
○従業者評価実施期間	2025年9月3日		～	2025年9月26日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4名	(回答者数)	4名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年2月12日			

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子どもの特性理解に基づく専門性の高い支援 保護者評価では全員が「特性を十分理解している」「親身に考えてくれる」と回答しており、専門性の高さが事業所の最大の強みである。過剰適応・感覚過敏・対人関係など、個々の困りごとに応じた具体的な支援が実施されている。個別支援計画も丁寧に作成され、本人支援・家族支援・移行支援の観点が適切に盛り込まれている。保護者からは「学校では難しいがプレイジムには自ら行く」「安心して参加できる」との声が多く、信頼性の高さがうかがえる。	面談や日々の対話を通じて保護者の意向を丁寧に聞き取り、支援計画に反映している。標準化検査や行動観察を組み合わせ、客観的なアセスメントを行う体制が整っている。活動中の声かけや環境調整（イヤホンの提案、視覚支援など）を個別に工夫し、子どもが安心して参加できるよう配慮している。職員間では計画作成会議やミーティングを通じて情報共有を行い、支援の一貫性を保つよう意識している。	専門性をさらに高めるためには、職員間でのアセスメント基準の統一や記録の質向上が求められる。また、学校での困りごとを把握しにくいという保護者の声もあり、学校との情報共有の仕組みを強化する必要がある。外部専門家との連携やスーパーバイズの導入により、支援の幅を広げることも有効である。支援時間の柔軟化を望む声もあるため、次年度に向けた枠組みの見直しも検討すべきである。
2	安心して過ごせる環境づくりと構造化された空間 保護者評価では「清潔で心地よい」「あたたかみがある」「わかりやすい環境」と全員が肯定的に回答している。動線や片付けの場所が視覚的に示され、子どもが自立しやすい環境が整っている。活動内容に応じて空間を調整し、必要に応じて個別スペースや簡易テントも活用している。靴下を脱いで活動できるなど、感覚面への配慮も評価されている。安心して通所できる環境が、子どもの意欲や参加のしやすさにつながっている。	来所から活動までの流れをイラストや写真で示し、見通しを持ちやすい環境を整えている。活動内容に応じて備品を移動させるなど、限られたスペースでも安全に運動できるよう工夫している。清掃や環境整備を日々行い、衛生的で落ち着いた空間を維持している。個別のニーズに応じて空間を調整し、過敏さや不安の強い子どもにも対応できる柔軟な環境づくりを意識している。	保護者が待機できる場所が欲しいという意見もあり、施設内での工夫や近隣施設との連携を検討する余地がある。環境調整の意図を保護者に説明し、家庭での再現性を高める取り組みも今後の充実につながる。
3	保護者支援の充実と相談しやすい体制 保護者評価では「相談しやすい」「寄り添ってくれる」「一緒に子育てしてくれている」との声が多く、相談体制の充実が強みである。連絡帳・面談・送迎時の対話など、多様な方法で情報共有が行われている。ペアレント・トレーニングや講演会、茶話会など、家族支援の機会も豊富で、保護者同士の交流も促進されている。困りごとへの迅速な対応が信頼につながり、家庭と事業所が協働する関係が築かれている。	相談内容に応じて適切な職員が助言できるよう、職員間で情報共有を行う体制を整えている。保護者支援プログラムや講演会を定期的に開催し、学びの機会を提供している。送迎時の短時間でも丁寧に対話し、家庭での困りごとを把握するよう努めている。プリントやメールでの複数回のリマインドなど、情報伝達の工夫も行い、保護者が安心して相談できる環境を維持している。	きょうだい支援の機会が少ないため、家族全体を支える視点を広げる取り組みが必要である。また、保護者会への参加に不安を感じる声もあり、参加しやすい雰囲気づくりや情報提供の工夫が求められる。学校での困りごとを把握しにくいという意見もあるため、学校との連携強化や情報共有の仕組みづくりが重要である。通信やSNSの発信頻度を高め、事業所の取り組みをより見える化することも有効である。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	スペース不足と活動内容との不一致 保護者からは「もう少し広いとありがたい」「運動には狭いことがある」との声があり、自己評価でも「活動によっては最適とは言えない」と課題が示されている。複数グループが同時帯に活動する場合、スペースが十分に確保できないことがある。運動活動や集団活動の際に、空間の制約が子どもの動きや安全性に影響する可能性がある。環境面の強みはあるものの、スペースの限界が支援の幅を狭めている。	建物構造上の制約により、活動内容に応じた十分な広さを確保しにくいことが背景にある。また、利用人数の増加に伴い、同時帯に複数の活動が重なることが増え、空間の調整が難しくなっている。備品の配置や動線が活動内容と完全に一致していない場合もあり、運動活動時に安全確保が難しくなる場面がある。個別・集団の両方を実施する体制が、空間の逼迫を生みやすい構造となっている。	次年度より運動活動を縮小する予定であり、スペースの問題は軽減される予定である。利用時間帯の調整やグループ編成の工夫により、同時帯の混雑を緩和することも有効である。将来的には、活動内容に応じたサテライトスペースの活用や地域施設との連携も検討すべきである。

2	<p>PDCAの振り返り不足と業務改善の仕組みの弱さ</p> <p>自己評価では「会議での振り返りが不十分」「個別相談はできるが組織的な改善が弱い」との記述があり、PDCAの“C（チェック）”が十分に機能していない。記録の質にばらつきがあることも、改善の精度を下げる要因となっている。第三者評価を受けていないため、外部視点が入りにくく、改善が属人的になりやすい。支援の質を安定させるためには、組織的な改善サイクルの強化が必要である。</p>	<p>個別支援が中心で職員が分散しているため、全員が参加する振り返りの時間を確保しにくい。ミーティングはあるものの、日々の業務に追われ、改善策の検討が後回しになりやすい。記録の書き方に統一性がなく、情報の精度に差が生じている。第三者評価を受けていないため、外部からの客観的な指摘が得られず、改善の方向性が固定化しやすい状況がある。</p>	<p>短時間で実施できる振り返りフォーマットを導入し、毎週のミニレビューを定例化することで、改善の習慣化を図る。記録フォーマットの統一や記録研修の実施により、情報の質を高める。第三者評価の導入により、外部視点を取り入れた改善が可能となる。改善策の実行状況を可視化し、PDCAが循環する仕組みを整えることで、組織的な改善体制を強化できる。</p>
3	<p>情報発信の不足と事業所の取り組みの可視化の弱さ</p> <p>保護者評価では「通信やSNSの発信が不定期」「活動内容や行事予定が把握しにくい」との声があり、自己評価でも「通信の発行頻度が少ない」と課題が示されている。支援内容や取り組みが高く評価されている一方で、その魅力や日々の実践が十分に可視化されていない。保護者が事業所の取り組みを継続的に把握できる仕組みが弱く、安心感や信頼感の向上につながる情報発信が十分に機能していない点が弱みとして挙げられる。</p>	<p>日々の支援が多忙で、情報発信に割ける時間が限られていることが背景にある。また、通信やSNSの役割が職員間で明確化されておらず、発信が後回しになりやすい。活動内容の記録は存在するものの、外部向けに編集して発信する仕組みが整っていないことも要因である。さらに、情報発信の目的や基準が統一されていないため、「何を・どの頻度で・どの媒体で」伝えるかが曖昧になり、結果として不定期な発信につながっている。</p>	<p>情報発信の担当者を明確にし、月1回など最低限の発信頻度をルール化することで、継続的な可視化が可能になる。活動内容を簡潔にまとめられるテンプレートを作成し、職員が負担なく発信できる仕組みを整えることも有効である。SNS・メール通信・掲示物など複数の媒体を使い分け、保護者がアクセスしやすい形で情報を届ける工夫が求められる。</p>

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 プレイジム

公表日 2026/2/12

利用児童数 33名

回収数 22

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	19	2	0	1	・もう少し広げれば有り難いですが、仕方ないのかなと思います。 ・利用人数に対して、十分に活動できていると思う ・室内で身体を動かす際に、もう少し広くてもいいかなと思うことがあります。 ・広すぎず、丁度良いと思います。	・運動活動を行う際には、室内の備品の一部を室外に移動して行うなどの配慮を行っています。
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	20	1	0	1	・とても丁寧に見て頂いていると思います。 ・現状で問題ないです。	
	3 生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	19	0	0	3	・どこに何を戻せばいいのかがわかりやすいと、子どもから聞いています。 ・準備のカードにもイラストがあり、わかりやすいです。	・引き続き、わかりやすい配慮・工夫を行っています。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、子ども達の活動に合わせた空間になっていると思いますか。	22	0	0	0	・靴下をぬいで活動しやすく、あたたかみのある空間です。 ・とても整った環境だと思います。	
適切な 支援の 提供	5 子どものことを十分に理解し、子どもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	22	0	0	0	・過剰適応なところ、自分の意見を押しつけがちなところなど、しっかり支援して頂き有り難いです。 ・よく見ていただけていると感じます。こちらが話したことも親身と一緒に考えてくださってありがたいです。 ・苦手な声があるが、声かけやイヤホンの着用を助めてくださり、安心して活動に参加できます。	・子ども理解の深さは、プレイジムが最も重視する支援者スキルです。今後も職員の専門性向上に努めていきます。
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	21	0	0	1	・支援目標に沿って行われていると思います。	
	7 子どものことを十分理解し、子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	22	0	0	0	・いつも詳しく丁寧に書いて頂きありがとうございます。 ・子どもと保護者の話をじっくり聞いていただき作成されていると思います。 ・運動だけでなく、自主性や他児への関わりについても個別支援計画を作成してくれています。生活していくのに必要な力です。	
	8 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	22	0	0	0	・適切な設定内容が、適切に支援されていると思います。	
	9 放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	22	0	0	0	・全身を使った運動や片づけ、仲間とともに行われています。	
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	22	0	0	0	・楽しめるよう創意工夫して下さっており、有り難いです。 ・本人の困りごとに対応した支援プログラムになっているように思う。 ・困り事があるなど、その時の状況に合った活動を組み込んでいただいたり、柔軟に対応していただいています。	
	11 放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他の子どもと活動する機会がありますか。	5	1	10	6	・そのような機会はありませんが、無くても不満はありません。	
12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	21	0	0	1			
13 「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	22	0	0	0	・詳しく説明をしていただきました。		
14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	20	1	0	1	・今回は参加させていただきます！		
15 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	21	1	0	0	・4年生3学期の行き渋りのさいは、相談にのって頂き、ありがとうございました。 ・日頃から気にかけていただいております、都度共有できております。 ・困りごとや学校での様子を聞いてくださいます。		

保護者への説明等	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	22	0	0	0	・連絡帳でもアドバイスをいただいたりしています。 ・イヤホンの着用などアドバイスを頂いています。	
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	22	0	0	0	・一緒に子育てをしてくださっている感じが あります。 ・保護者に寄り添ってくださると感じま す。 ・活動中に話しかけてくれたり、やってみよ うと励まして頂いています。特性についても理 解して頂いています。	
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	15	3	0	4	・きょうだい児さんの交流は、わからないで す。 ・保護者会も次回は参加したいですが、お互 いの障害特性や程度がわからないので、多少 不安があります。	・保護者同士がつながり合える場合は、家 族支援の大切な一環です。今後さらにそ の機会を広げていきたいと考えていま す。
	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	21	1	0	0	・かなり迅速に対応してくださったと思いま す。 ・苦手な声の件も対策を考えて頂きました。	
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	22	0	0	0	・相談を聞いてもらえています。	
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	19	0	1	2		
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	21	0	0	1		
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	19	0	0	3		・保護者の皆さまが安心してご利用いた だけよう、各種マニュアルの周知に今 後も努めてまいります。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	13	0	0	9		・避難訓練は定期的に行っていますが、 利用日によっては参加機会に偏りが生じ る可能性があります。次年度は偏りのな い実施を目指し、計画的に取り組みま す。
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	22	0	0	0		
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	17	1	0	4	・事故が今まで起きていないのでわかりませ ん。	・万が一の際にも安心していただけるよ う、事故時の対応手順などを平時から丁 寧にお伝えするようにします。
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	22	0	0	0	・早く行きたい、早く行こうと、木曜日はせ かされます。 ・子供は自ら進んで参加できるようになっ た。 ・特性も理解して頂いているので、安心して 参加できています。	
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	22	0	0	0	・活動内容が好きなことばかりなので楽し みにしています。	
	29	事業所の支援に満足していますか。	22	0	0	0	・支援の時間が45分で、物足りない感じがあ る。 ・非常に満足しています。 ・いつもありがとうございます！ ・大変満足しています。	・活動内容に応じて支援時間を柔軟に設 定できるよう、次年度に向けて新たな枠 組みの導入を検討しています。

公表

事業所における自己評価結果

事業所名	公表日 2026/2/12					
事業所名	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	2	2		・定員内ではあっても同時に複数のグループや個別活動がある場合や、運動グループには狭い思えないことがある。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	4	0		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	4	0	・子どもの状況に応じて、環境調整を進めている。 ・来所からの動線が分かりやすくなるように手順をイラストや写真で示すような工夫がある。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	3	1	・積極的に掃除している	・活動によっては、最適な空間とは言えない場合もある。 ・掃除の時間に職員が揃わないことがあり、掃除が十分にできないことがある。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	4	0	・スタッフ間で相談し、使用する場所を調整することもある。 ・簡易テントなどで個別の空間を作っている。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	2	2	・日々のミーティングで業務改善についての意見を言える場が設けられている。	・個別に相談はできていると思うが、会議等の場を使った振り返りは不十分である。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	4	0		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	4	0	・事務手順や安全確保、衛生面などの意見について取り入れられている。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	0	4	・いわゆる第3者評価は受けていないが、身体拘束や虐待防止については外部委員の意見を取り入れ行っている。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	4	0	・各職員に合う研修への参加を提案されることや受講したい研修への参加費などを法人に負担してもらえる。 ・法人内で職員同士での研修会の機会もある。	
適	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	4	0	・事業所独自の支援プログラムを作成し公開している。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	4	0	・支援の内容について、利用児・保護者双方からのニーズや希望を面談で聞く機会があり、それらを元に事業所で出来る支援を計画として作成している。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	4	0	・支援計画作成会議の場で職員間で検討する機会が必ず設けられている。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	4	0	・管理者、担当、その他の職員で共有できている。 ・計画更新時期だけでなく、随時、計画に沿った支援を実施しているか職員同士で検討する機会がある。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	4	0	・必要な項目についての検査を随時行うとともに、日々の記録にて確認している。	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	4	0	・児童発達支援管理責任者と話し合いながら、丁寧に取り組んでいる。	

切 な 支 援 の 提 供	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	3	1	個別療育については、チームで取り組んでないが、グループのプログラムは、チームで一緒に考える機会を設けている。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	3	1	・担当支援員だけでなく、他の職員からもプログラムのアイデアについて相談できる環境がある。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	3	1	・個々の集団活動へのニーズ、個別支援でのニーズを整理し、計画を作成している。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	3	1	・グループ活動の時には事前打ち合わせをしている ・個別療育については必要ないが、危険防止についてや援助が必要な時など必要に応じて打ち合わせを行っている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	3	1	・退勤時刻の関係で支援終了後には時間が取れないため、翌日のミーティングで行っている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	3	1		・療育の内容や職員間で差がある。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	4	0	・児童発達管理責任者によるモニタリングが設けられていることで、見直しを意識しやすくなっている。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせさせて支援を行っているか。	4	0	・複数組み合わせながら、一番必要な項目について重点的に支援が行えるように設定している。	
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	4	0	・どのような場面で自己選択・自己決定していくかを支援計画に具体的に記載することで、支援に取り入れやすくなっている。	
	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	4	0	・オンラインでの参加などでそれぞれが時間を合わせて参加しやすくなっている。	・療育時間の関係で担当支援員の参加が難しいことがある。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	2	2	・事業所の個別支援計画を学校などと共有している。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	2	2	・保護者送迎が基本のため、学校の情報は保護者と確認している。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	1	3		連携の必要性を感じることもあるが、十分にできていない。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	2	2	・必要に応じて、書面にして提供している。	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	1	3		
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	0	4		・事業所として、その必要性を感じていない。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	1	3	・管理者は、自立支援協議会の委員として参画している。	・管理者以外の職員の協議会等への参加は少ない。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	4	0	・送迎時に保護者とは話す機会を設けるようにしている。	
35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	4	0	・保護者支援プログラムを定期開催している。 ・事業所主催の外部向けの講演会への参加の機会も提供し、保護者などの関係者は無料にするなど参加しやすくしている。		
36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	4	0			

保護者への説明等	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	4	0	・面談にて複数回確認している。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	4	0		
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	4	0	・家族支援を積極的に実施し、相談援助や養育力向上の支援を行っている。 ・相談を受けた職員では知識不足から適切な助言が出来ない場合には、職員間で情報を共有し適切な役割の職員が助言を行うような体制も出来ている。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	4	0	・保護者支援プログラムとして気軽に話せる茶話会的な場を定期開催している。	
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	4	0	・メールや電話、面談など必要に応じて迅速に対応している。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	2	2	・不定期であるが、通信等をメールにて発行している。 ・事業所で行う講演会や懇談会などの情報を発信している。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	4	0	・個人情報ガイドラインに基づき、セルフチェックシート作成し、職員各自で意識できるようにしている。	
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	4	0	・場面緘黙症の利用児については、タブレットや筆談、ジェスチャーなどの方法を用いている。 ・保護者にお伝えしたいことがある際には、口頭説明だけではなく、プリント類の配布やメールでのお知らせを複数回に分けて（リマインド）行っている。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	0	4	・事業所として、放課後等デイが子どもの生活に定着するのではなく、放課後等デイ以外の場所に子どもの居場所ができることを望むため、地域との関係をあまり重視していない。	
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	2	2		・契約時には伝えているが、周知が不十分かもしれない。 ・書面や会議上での研修が多く、実際に想定した訓練の機会は少ないように思う。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	3	1	・災害が起きた場合の利用者への連絡手段なども法人内で行えるように情報保護に関する規約を変更することも行った。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	4	0	・個人情報シートにて確認している。	
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	4	0	・個人情報シートにおいて明確な食物アレルギーの利用児はいないので、医師の指示書に基づく対応はしていない。小麦粉粘土を行う場合や調理のプログラムの際にはその都度、保護者に確認している。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	3	1	・事業所内外の危険個所の点検など定期的実施している。	・不審者侵入対応など研修や訓練が行われていないものもある。
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	3	1	・駐車スペースでの行動や気象警報での判断、火災の場合など周知している	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	4	0	・ミーティングの場で職員間で共有し、再発防止についても検討している。	・どの状況をヒヤリハットと考えるかの職員間の認識を合わせることが難しいこともある。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	4	0	・職員がそろう場で研修が行われている。	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	4	0	・必要な場合には記載している。	・支援計画への記載は身体拘束が起こってから対応であり、事前に予測し計画に反映させることが難しい。起きるかもしれない可能性をどのくらい検討していくかが課題。	